

土浦市霞ヶ浦湖畔における利用者のごみの分布

Spatial Distribution of Lake side Users and Garbage around Lake Kasumigaura,
Tsuchiura City

亀川星二 (博士前期課程地球科学専攻)

KAMEKAWA Seiji (Master's Program in Geosciences)

1. 研究目的

本調査では土浦市霞ヶ浦湖畔を対象として、霞ヶ浦利用者の特徴とごみの分布を明らかにし、その関係を考察する。また休日と平日における利用者を比較し、その特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 調査範囲・調査方法

調査範囲は、土浦市霞ヶ浦湖畔の内、国民宿舎水郷から境川までの間とした。

調査方法は、霞ヶ浦に沿って歩き、霞ヶ浦を利用している人（どのようにして利用しているかと人数）、落ちているごみ（種類と量）、係留されている舟（種類と数）の位置を GPS とフィールドノートで記録した。なお図のベースマップはゼンリンの ZMAP を利用した。調査は 1 月 25 日（日）、26 日（月）に行った。

3. 結果・考察

図 1 は 1 月 25 日（日）における利用者のごみの分布を示している。ごみは缶やペットボトルなどの飲食ごみが多く、利用者のほとんどは釣り人であった。ごみは利用者があまりいない場所に落ちていることが多いが、飲食ごみについては利用者の分布とある程度一致している。

また図 1、図 2 から休日と平日における利用者を比較すると、休日は釣り人の中でもブラックバス釣りをを行う人の割合が多いが、平日になるとわかさぎ釣りをを行う人の割合が多くなる。これは、ブラックバス釣りは、茨城県のみではなく関東から来ている人も行っているのに対し、わかさぎ釣りは土浦市など、主に近隣の人が行っているためであると考えられる。

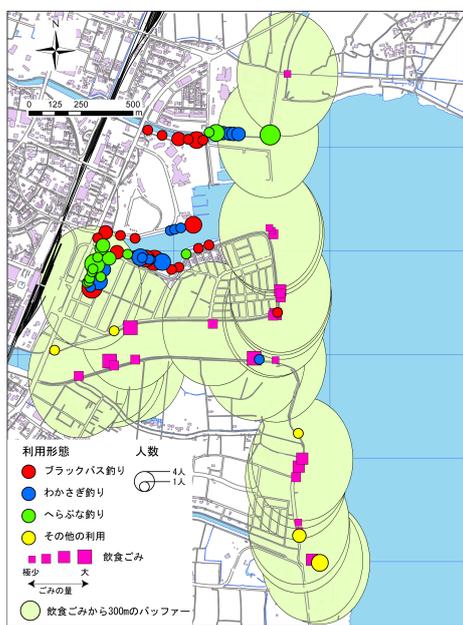


図1 飲食ごみと利用者の分布

ゼンリンZMAPおよび現地調査より作成

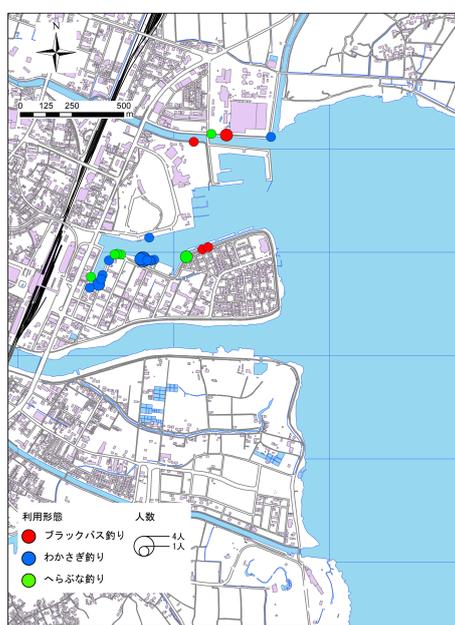


図2 1月26日における釣り人の分布

ゼンリンZMAPおよび現地調査より作成